

平成 30 年度教育事業

「集団登山 指導者研修会」(H30.6.30(土)～7.1(日))



目的

青少年の集団登山の教育的価値に関する理解を深め、活火山対応を含む安全な指導についての基本的な知識を身につける。

参加実績 (募集 20 名)

参加 10 名

- ・高校教諭 (山岳部顧問) 3 名
- ・小学校教諭 2 名
- ・教育委員会職員 1 名
- ・自営業 1 名
- ・大雪ボランティア 1 名
- ・学生 1 名
- ・無職 (講師の知人) 1 名

集団登山指導者研修会 6.30(土)～7.1(日) 2泊3日

□ 趣旨 集団登山の教育的価値について理解を深め、実習を通して、安全に集団登山を実施するために必要な知識や指導技術を身につける機会とします。

□ 対象・定員 教育関係者、青少年教育の指導者を目指す方 18歳以上の方 / 20名

□ 登山コース 湧雲閣～富良野岳山頂 (予定) (標高1,912m)

□ 費用 (予定) 2,070円 (保険代・シューズ代・食事代)

□ 講師 日下 哉氏 (北海道教育大学社会科学研究科、富良野圏域大学地域教育研究センター、旭川地方気象台職員)

□ 内容 【1日目】13:00受付、①集団登山の教育的意義 (説明) ②活火山の安全対策 (講義) ③天候の基礎的知識 (講義) ④登山の整備と安全対策 (事故防止) (講義・実習) ⑤リーダーの役割 (事故回避と対応) (講義) 【2日目】⑥集団登山の実践 (実習) ※少雨決行、15:45頃解散

対象者 ★★★★★



プログラム

講義「集団登山の意義」・・・(30分)

北海道教育大学岩見沢校

非常勤講師 日下 哉氏

・講師自身の登山との出会いや、その後に教師として、集団登山に関わる中で得られた経験をもとに、登山の魅力や教育的効果について話していただき、理解を深めた。

講義「活火山の安全対策」・・・(40分)

旭川地方気象台 火山防災官 永澤 幸氏

・登る山が活火山の場合、噴火警戒レベルや火山情報、観測データ等の確認をし、現在の活動状況を把握することや、噴火に備えた装備や避難方法の確認など、安全登山のための理解を深めた。



講義「天候の基礎的知識」・・・(40分)
旭川地方気象台 気象情報官 大谷 誠治 氏
・山特有の気象現象や、適切な判断のために必要な知識について学び、危険を回避するために気象情報を積極的に活用する意識を高めた。



講義「北海道の自然環境と集団登山」・・・(180分)
岩見沢教育大学 非常勤講師 日下 哉 氏
・山での遭難事例を取り上げ、気象や日照時間などの情報をもとに、活動計画や装備などの準備をすることの大切さ、登山中の危機管理や、指導者としての心がけなどについて、理解を深めた。

演習「集団登山の実際」・・・(480分)
岩見沢教育大学 非常勤講師 日下 哉 氏
・富良野岳にて、実際の集団登山を体験した。歩くペースや休憩の摂り方、雪渓の歩き方など、集団を引率することを想定しながら、安全に登山活動を行うためのスキルを学ぶことができた。

成果

講師の永年の指導経験に基づいた講義内容によって、集団登山の意義や魅力への認識を深めた。

自然環境下での活動に必要な、気象変化への対応、事前準備や予測判断の重要性について理解した。

講義の内容を踏まえ、実際の集団登山を想定した演習ができた。

参加者の声

登山のスキルアップだけではなく、登山に関する知識をたくさん吸収できた。
何の不安もなく、本格的な登山を経験させてもらった。いろいろご配慮をいただき、ありがとうございます。
セルフレスキューの講座を入れてほしかった。



事業運営のツボ・工夫・反省

- ・想定よりも参加者が少なかったのは、高校山岳部の大会日程が事業と接近していたことが一因と思われる。今後も、事業日程の設定には留意したい。
- ・平年に比べ、雪が多く残っていたこともあり、雪渓の歩き方も含めた演習ができた。指導者向けの研修には最適な時期である。
- ・「北海道安全な登山」などの著作もある講師であり、山岳部顧問の経験もあったので、教育の立場から集団登山を語っていただけたことは、意義深い。

事業運営費	合計	203,427 円
講師謝金・旅費		50,110 円
消耗品費		2,228 円
チラシ印刷代		103,118 円
チラシ郵送費		47,971 円
印刷代、郵送費については全登山登山事業(6事業)共通		

